

第2次 座光寺地域 基本構想・基本計画 (素案)

第1章 基本構想・基本計画策定のねらい

1 計画策定の趣旨

座光寺地域は、飯田市と合併して60周年の節目の年を迎えます。この間、先人から受け継がれてきた豊かな自然や歴史、文化、特色ある農業などを守り育ててきました。

当地域を取り巻く状況は、リニア中央新幹線整備事業および関連道路事業、恒川官衙遺跡整備事業、「知の拠点」整備事業など、地域全体に及ぶ様々な大型プロジェクトが動き出し、まさに座光寺地域の大変革期を迎えています。

一方、日本全体で社会問題となっている人口減少、少子高齢化については、当地域も例外ではなく取り組むべき重要な課題です。

この変革期にあっても、誰もが将来に希望と自信をもって心豊かにいきいきと暮らせる質の高い「麻績の里座光寺」を創造していかなければなりません。

第2次基本構想・基本計画は、その指針となる地域づくりの目標であり、我々が取り組むべき具体的な行動計画です。

2 計画の性格

基本構想は、座光寺地域の豊かな自然や歴史、文化を守り、より活力に満ちた社会や産業を生み出し、心豊かに暮らせる新たな時代にふさわしい地域づくりの方向を示すものです。

基本計画は、座光寺地域自治会をはじめ各団体の活動の目標として活かすとともに、総ての座光寺住民の指針となるよう策定するものです。

また、座光寺地域づくりの方策を示すことにより、市、県、国の理解と協力を得るとともに、地域住民の自主的、積極的参加を期待するものです。

3 計画の期間

平成29年度から向こう12年間(平成40年度まで)の取り組みの目標とします。

なお、6年を一区切りとして計画の見直しをおこない、時代に沿ったものに改めることとします。

4 取り組みの主体

住み良い地域づくりのために、住民は自分たちでできることは自ら額に汗して取り組み、行政はその組織をスリム化し、住民の身近で住民の意向を大切にされた施策を行うというのが、地域自治です。

住みやすい地域づくりの主体は、我々住民です。地域住民一人ひとりが知恵と汗を流さない限り、良い地域はつくれません。

「私が地域づくりの主役」を合い言葉に知恵を出し、汗を流しあうことを大切にしていきたいものです。

第2章 基本構想のめざすもの

① めざす将来像

あなたも私も暮らしやすい 自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台 「麻績の里 座光寺」 【自ら考え自ら行動するまちづくり】

座光寺は東に南アルプスを望む天竜川西岸に位置しています。段丘地形から、地域は上・中・下段に分かれ、変化に富んだ自然や風土を活かした生活の様子が見られます。

豊かな自然とともに、座光寺は歴史・文化が息づく地域です。古代伊那谷の中心としての役割を担った「恒川官衙遺跡」をはじめ、多くの貴重な史跡・文化財があります。私たちはこれらを地域の財産として守り、未来に引き継いでいかななくてはなりません。

当地域の農業は、恵まれた自然条件と高度な生産技術により、優良産地として発展してきました。美しい農村風景も、当地域の大きな魅力の一つです。今後は多様な地域資源と時流を活かし、農業、商工業、観光等がつながり相乗効果を発揮することで、新たな産業の可能性を導き出したいと考えます。

リニア新幹線の開通をはじめ、近い将来、当地域には大きな環境の変化が訪れます。しかし変化は新たな可能性でもあります。私たちは文化伝統に根付いた暮らしを守りながら、地域資源を活かし交流人口を増やし、地域の活力を向上させたいと願います。私たちは変化＝可能性をとらえ、人と人の交流を促し、共感を育み、新たな地域を創造していきたいと考えています。座光寺の自然・歴史・文化・ものづくりが、新しい時代に光彩を放つことを将来像に描き、その実現を、地域づくりの主人公である住民一人ひとりの「自ら考え自ら行動するまちづくり」に託します。

2 将来像実現に向けての6つのまちづくり

将来像実現のための主要な施策を次の6つの「まちづくり」に体系化し、住民自ら考え自ら行動することをまちづくりの基本姿勢として、「あなたも私も暮らしやすい 自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台「麻績の里 座光寺」」を目指します。

(1) 心通い合うコミュニティを創造するまちづくり

将来にわたり地域コミュニティを維持発展させていくために、一人ひとりの参画と協働を基盤に、自立の輪を広げていきます。さらに地域を知り愛着を育む機会をとおり、次代を担う若者が帰ってくる、誇りのもてるコミュニティをつくりまします。

今後は交流人口の増加が期待されますが、地域に多様な交流の場を創出し、交流人口を定住人口につなげていきます。あわせて、より多くの住民が参画できるコミュニティ運営を進めます。

(2) 一人ひとりが地域に学び、生涯成長できるまちづくり

地域を愛し、地域に学び、自ら考えまちづくりの担い手として行動する「みやましい」人をつくりまします。このため、誰もが生涯現役で活躍できる環境を整え、スポーツや生涯学習を推進します。

また、地域の人々が結婚して家庭をもち、安心して子どもを生き育てられるよう、地域で見守り支えます。さらに学校と地域が連携して「地域の宝」である子どもたちを見守ります。

(3) 自然と歴史・文化を活かし育むまちづくり

先人から受け継いできた自然・歴史・文化を、座光寺の誇りとして次代に受け継いでいくとともに、その利活用に取り組みます。リニア時代を見据えた「2000年浪漫の郷」づくりにより、継承と活用を進めます。

交流と学習をとおり、麻績の里にふさわしい地域文化を継承し発展させるとともに、その情報発信に努めます。

(4) 健やかに安心して暮らせる住みよいまちづくり

社会生活の基本的ルールを守り、より良好な人間関係の形成に努め、地域住民・隣近所が協力し合い、健康の増進と地域福祉の充実を進めます。

地域の宝である自然環境の保全活動を継続するとともに、身近な環境衛生に取り組みます。また災害や事故に適切な対応を行うことのできる、安全安心なまちづくりを進めます。

(5) 地域特性を活かした元気な産業のまちづくり

座光寺の産業は農業を主力に、段丘の地形特性を活かし発展してきました。今後はリニア関連事業や「知の拠点」整備事業等が、産業振興にも影響を及ぼすものと考えられます。

地域の人・もの・技術が有機的につながること、新たな価値の創出が期待できます。風土を活かした座光寺らしい農業、農商工連携による新たな産業の創造等、地域特性を活かした産業の充実と発展に努めます。

(6) 人と自然に優しいインフラ整備

座光寺地域はリニア新幹線をはじめとする大事業により、生活基盤である住宅地、生産拠点の優良農地等が大きな影響を受けると予想されまします。

土地利用計画に沿った開発、変化に応じた土地利用計画の見直しを進めるとともに、関係組織を通じ地域の声を事業者側に届けます。人の暮らしに優しい土地利用と、リニア開通後を見据え、地域全体が調和する環境整備を進めます。

施策の体系



第3章 6つのまちづくり 施策の展開

1 心通い合うコミュニティを創造するまちづくり

(1) 参画と協働を進め、自立の輪を広げます

- ① 住みやすい地域にするために、地域住民は協力し合う事の大切さを理解し、組合加入率 75%を目指します。
- ② 近所付き合いは、人と人との絆が大切です。お花見、新年会など組合の親睦の機会を増やし、組合活動を活発化します。
- ③ 今後世帯数の減少傾向により、地域自治組織の役員等を選出するにあたっては、隣接地区同士をブロック化するなどの方策を考え実行します。
- ④ 自らの地域は、自らの手で守り育てるため、道路清掃、雪かき、草刈りなど環境整備活動を実施します。
- ⑤ 地区住民は、地区総会、スポーツ大会など地区行事は誘い合い、声掛け合って積極的に参加を促し、交流を深める事で、帰属意識と夢を育てます。
- ⑥ 充実してきた連絡会活動を通じ、その場で協議してきたことを地区住民に周知していきます。
- ⑦ 地域づくりフォーラムなど多くの住民参加のもと、地域の現況と課題について話し合う機会を設け、諸活動に反映させます。
- ⑧ 実践活動発表会の場となる文化祭を充実させ、住民意識の啓発に努めます。
- ⑨ 各種会合開催時には、当冊子を持ち寄り、読み合わせをし、内容の把握に努めます。
- ⑩ 各家庭において当冊子を身近な所に置いて、常日頃から目を通すことを習慣付けします。
- ⑪ 地域に新たに加わる皆さんをまちづくりの担い手として暖かく迎え入れ、共に手を携えて活力あるまちづくりに取り組みます。

(2) 郷土愛を高め若者が帰ってきたい地域づくりを進めます

- ① Uターン、Iターンなど田舎暮らしを求める方の相談を行政と一緒に考えます。
- ② 社会的マナーは、履物を揃える等、大人から子供まで全員が取り組みます。
- ③ 地域住民が心をひとつに熱くなれる夏祭りを、さらに盛り上げて地域を活気づけます。
- ④ 各地区で伝統行事を再評価し、活発化させます。どんど焼きを、

全ての子供たちが体験できるようにします。

- ⑤ 地域を知り学ぶための「座光寺探訪」をシリーズ化して開催します。
- ⑥ 「子供桜ガイド」、「史跡ガイド」を育成するために、組織化を図ります。また「麻績の里検定」を実施、海外の方にも対応できるようにグローバル化し、ガイドのクオリティを高めます。
- ⑦ 麻績の里座光寺を象徴し、住民が親しみと誇りが持てるシンボルとなる花と木を定めるとともに「座光寺の歌」を浸透させます。
- ⑧ 「みやましい人」の言葉の意味をよく理解し、住民ひとりひとりが再認識できるように学習の場をもうけます。

(3) 多様な交流の場を創出し、拡大につなげます

- ① 女性ならではのアイデアやパワーを、地域に活かす組織づくりを支援します。
- ② 地域づくりに向けて、同じ志を持つ方たちの活動を、積極的に展開できるように支援します。
- ③ リニア時代を見据えて情報の発信力の強化に取り組み都市との交流を増やします。
- ④ 都会の人達に、座光寺ならではの自然と豊富な果物で、「おもてなし」をして多くの人を招き入れます。
- ⑤ 都会からの交流・移住人口を増やすために、地の利を生かした観光農園やクラインガルテン及び古民家・廃屋の活用を検討します。
- ⑥ 都会の人達の仕事や趣味など、多様なライフスタイルに応えるために、二地域居住の誘致をすすめます

(4) コミュニティ運営の充実を図ります

- ① 高齢化や家族構成の変化にとめない、地域活動に参加しづらくなった組合への共助による活動支援を行います。
- ② 行事参加では、皆で声をかけあい、誰もが参加できるように、気安く・気楽に迎え入れます。
- ③ 趣味を通じた仲間づくりを推進し、その仲間が核となって、地域コミュニティの活性化に貢献します。

2 一人ひとりが地域に学び、生涯成長できるまちづくり

■ 地域を愛し、自ら考え自ら行動する「みやましい」人づくり

(1) 誰もが生涯現役で活躍できる環境をつくります

- ① 地域固有の自然・歴史・文化などが持つ価値をみんなが認め合い、「地域の宝」として次世代に継承するために古老や有識者とともに地域内を巡るなどして、学び合う場をつくります。
- ② 「子ども桜ガイド」、「史跡ガイド」をはじめとするボランティアガイドや語り部を育成し、その活動を支援します。
- ③ 竹宵・人形劇・麻績太鼓など子どもたちも参加できる文化芸能活動を支援し、新たな伝統として継承していきます。
- ④ 活力あるまちづくりに子どもや若者・女性の自由で柔軟な発想を取り入れるため、地域の内外を問わず誰もが自発的に集い、学ぶ活動を支援します。
- ⑤ まちづくりの先進地域や地元出身者（ふるさと座光寺会など）との交流を通して、座光寺の特色を見つめ直します。
- ⑥ 自主的なまちづくりや地域振興活動に意欲的に取り組む人や団

体に光を当て、その活動を奨励・支援します。

(2) スポーツを振興します

- ① 地域住民がその年齢や身体状況に応じて誰もが気軽に参加できるスポーツの紹介や、大会を開催します。
- ② 運動会や各種スポーツ大会を住民・自治会・公民館・地区役員等が連携して運営し、盛り上げます。
- ③ ニュースポーツを含めた指導者講習会などの開催、参加の働きかけを通じて、指導者の発掘・育成に取り組み、地域におけるスポーツの普及に取り組みます。
- ④ マレットゴルフ場や体育館など地域内のスポーツ施設の利活用を進めるとともに、施設の拡充が図られるように行政に働きかけます。
- ⑤ 大人も小・中・高校生も参加することができる「高陵わくわくクラブ」の活用などにより世代を超えたスポーツの振興に取り

組みます。

(3)生涯学習を推進します

- ①現在の公民館講座を継承しつつ、更に環境・自然・人権など今日的なテーマを追加・拡充するなど、多くの地域住民に「学びの場」を提供します。
- ②住民の学習意欲に応えるために、各年代層のニーズに合った適時・適切な講師による学習の機会を設けるとともに、学習グループの結成と活動を支援します。
- ③古くからこの地域に伝わる方言の意味合いを理解し、地域独特の言葉の持つ豊かな情感と表現力を次世代に継承できるように取り組みます。
- ④分館図書館の利用促進を図るために、蔵書や施設の充実を行政に働きかけます。
- ⑤専門知識等を有する地域在住者・出身者などの人材を発掘・集積し、必要に応じて学習・趣味グループの活動やまちづくりを活かします。

■地域みんなで支える結婚・出産・子育て

(4)結婚、子育てを地域全体で見守り、支え、応援します

- ①家庭では、あいさつ・掃除・手伝いなど親子のふれあいの時間を大切に、自ら進んで行動する「みやましい」子どもを育てます。
- ②つどいの広場や乳幼児教室、保育園や児童センターなどを有効に活用し、子育て経験者からアドバイスを受けたり、親同士が子育ての悩みなどを語り合える機会を提供するなど、安心して子育てできる環境を地域全体で支えます。
特に、児童センターの開設時間延長とそれを支える人材の確保を行政に要望します。
- ③育児に関する相談窓口を周知・活用するとともに、育児・子育てを支援するためのボランティアを養成し、地域全体で子育て

を支援します。

- ④助産師や産科・小児科医師の確保を行政へ要望し、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を働きかけます。
- ⑤自然とふれあいながら安心して家族で憩い、子どもの笑い声が響く公園・遊具の整備や新設要望を行います。
- ⑥公民館活動や地域行事への親子参加などを通じて、地域の人たちとの交流の場をつくり、笑顔であいさつを交わし合える関係を築きます。
- ⑦通学路の美化と整備に積極的に取り組み、子どもたちが安全に通学できる環境を整えます。
- ⑧結婚相談員等と連携して「出会いの場」を企画・実施し、地域をあげて婚活を支援します。

(5)学校と地域が連携を深めます

- ①「座光寺の子どもを語る会」を軸に、学校・家庭・地域が情報を共有し連携を深め、小中連携・一貫教育を地域から支える「コミュニティスクール」に取り組みます。
- ②学校開放や運動会・音楽会などの学校行事に地域住民も進んで参加し、学校に対する理解を深めます。
- ③ものづくり教室や地域の自然・歴史・文化を題材にした授業に、地域住民が講師として協力・参画します。
- ④学校の地域活動への積極的参加や、更なる学校行事の公開などを働きかけます。
- ⑤あいさつ運動や「子ども見守り隊」のバトロールなどを通して、地域をあげて子どもの安全を見守ります。
- ⑥どんど焼き・春祭り・夏祭り・人形劇フェスタなどの地域の行事や各種公民館事業などに、子どもも大人も積極的に参加し交流を深められるよう学校・PTA・保育園・保護者会と連携して取り組みます。
- ⑦「知の拠点」に集う教授や学生・研究者、産業センター等と住民が相互に友好・有益な関係を築けるよう、あらゆる機会をとらえて「交流の場」をつくります。

3 自然と歴史・文化を活かし育むまちづくり

■自然の保全と活用

(1)美しい自然を次代に継承します

- ①みんなに親しまれる里山を目指して草刈り、枝打ちなどの整備作業を呼びかけます。
- ②南本城城跡などの史跡環境を生かし、四季を通じて身近に足を踏み入れる事ができる里山として散策道などの整備をします。
- ③座光寺富士をシンボルの山として、地域住民が親しめるための案内板、名札などを立てて登山道を整備します。
- ④天竜川河川敷の水辺の広場、マレットゴルフ場など市民の憩いの場として活用を進めます。
- ⑤大門原一帯を座光寺の新名所になるように進めます。

(2)自然にふれ親しむ環境をつくります

- ①地域内の小川を汚さないように努め、清らかな水が流れ、魚の棲める水質環境を保つため、BOD値2mg/l以下、夏場の大腸菌群数500個/ml以下を継続します。
- ②地域の環境が大きく変化する中で、ホテルやアサギマダラなどが棲める環境を維持します。

■2000年浪漫の郷

(3)歴史・文化を保存し継承します

- ①高岡第1号古墳隣接の市所有地の活用や恒川官衙遺跡の保存活用等について、市に地元意見を提案します。
- ②麻績学校校舎、石川除について現段階より上位の文化財指定を目指して取り組みます。
- ③清水の湧水復活の研究を進めるとともに活用を模索します。
- ④「2000年浪漫の郷」のパンフレット・各史跡マップの作成、遊歩道整備、案内板の設置、周遊コース策定等を実施します。
- ⑤地域に受け継がれた文書、教科書資料を「麻績史料館」に集積し、民俗資料、民具の展示場所の新設を含め検討します。
- ⑥小中学生・若者・女性を対象としての見学会や書物を活用した学習を行います。
- ⑦専門家による発掘や外部機関の積極的な活用と、地域専門家の募集、地元維持管理団体と外部機関と定期的な意見交換に努めます。
- ⑧主な史跡の駐車場などの環境整備に努めます。

(4)歴史・文化の活用に取り組みます

- ①「2000年浪漫の郷」をどのように活用を図るのか、専門プロ

ジェクトをつくり検討します。

- ②元善光寺周辺の門前町の復活整備、リニア駅から元善光寺方面への県道市場桜町線の史跡や門前町に見合ったデザイン・将来像について検討し、県・市に地元意見を提案します。

■地域文化の創造

(5)交流と学習を通して文化を継承し発展させます

- ①座光寺の自然、歴史、文化を学び、地域への関心を高め、多くの史跡や芸能を活かした麻績の里にふさわしい文化を育みます。
- ②竹田人形が多くの人々に親しまれ地域に根ざすように、竹田人

形館と協働して竹の子座などの学習や公演活動を支援、諸施設の利活用として庭園を眺めながらの演奏会やお茶会などを企画します。

- ③獅子舞、屋台囃子、座光寺音頭など地域に根ざしている伝統芸能の支援をしていきます。
- ④菊づくりは地域ぐるみで支える体制を目指します。

(6)地域文化の情報を発信します

- ①行政とともに遺跡、文化財等の整備活用を図り、広報誌、ホームページ等を通じて内外に情報の発信を行い、伝統文化等の活用及びPRを図ります。

4 健やかに安心して暮らせる住みよいまちづくり

■健康と福祉のまちづくり

(1)共助の心で地域福祉の向上に努めます

- ①自然と触れ合いながら、安心して子供と大人が共に楽しむことのできる、ピオトープ、小規模公園を地域住民が見守り、整備できるように環境づくりを進めます。(ピオトープとは野生動植物の安定した生息地 小川の再生)
- ②一人暮らしや身寄りのない高齢者が安心して生活できる交流の場を設け、地区住民で見守り活動を進めます。
- ③公共交通の利用促進、移送サービスの拡充等の、継続を図りながら、高齢者、支援者の通院や買い物支援を進めます。
- ④「誰もが安心して暮らし続けることのできる地域」を目指して、地域住民や協力事業所、民生委員の見守り活動で小さな異変への早期対応につなげます。

(2)寿命を延ばす取り組みを進めます

- ①高齢者が生き甲斐や充実した生活が送れるよう、生涯学習の機会を提供します。
- ②公民館のスポーツ活動や社会体育などへの高齢者の参加を促進します。
- ③「自分の健康は自分で守る」ことを基本に、地域で支え合いながら年代に応じた健康づくり、体力づくりなどを進めます。
- ④住民の健康意識向上のため、地区で呼びかけを行い、家族と共に健康診断の受診率を高める努力をします。
- ⑤「いきいき広場」「ふれあいサロン」への参加を積極的に進め、趣味やサークルの充実を図り多くの人と交流できる場を図ります。

■快適で安全安心なまちづくり

(3)身近な足元の環境衛生に取り組めます

- ①上郷地区、高森町にも呼びかけて、土曾川、大島川の荒れた雑木林竹林の整備を河川管理者等に働きかけます。
- ②常に環境衛生に心を配り、行事の時だけでなく日常的なゴミゼ

ロウォーク（ゴミ袋を持参しながらのウォーキング）の普及に努めます。

- ③全域のゴミ収集場所への、指定日表示看板の整備を進めます。
- ④家庭でのゴミの分別、リサイクルの徹底を図るため、ビン、ペットボトルの、リサイクルステーション利用を進めます。
- ⑤ゴミの不法投棄、ポイ捨て防止の強化を継続すると共に、ごみを捨てない放置しない意識を啓蒙し、捨てられない環境づくりを進めます。
- ⑥自らの地域は、自らの手で守り育てるため、道路清掃、雪かき、草刈りなど環境整備活動を組合毎に実施します。

(4)災害に強い地域づくりに努めます

- ①自然災害に備え、安心して避難できる避難場所を各地区に確保するよう働きかけます。
- ②座光寺地域の防災ハザードマップを確認すると共に、予想される危険箇所の再認識に努めます。
- ③年1回の防災訓練を継続し、より実践的なものに高めていくように努めます。
- ④家庭内で災害への備えが十分できるように、防災対策に努めます。
- ⑤防災世帯台帳や「支え合いマップ」の整備、見直しを図り、災害時の幅広い対応を目指します。

(5)防火防犯と交通安全に取り組めます

- ①住民の安心安全を確保するために、防犯灯を適切に配置し、夜でも安心して歩ける地域になるよう努めます。
- ②自治会各委員会、警察署との連携によるパトロールや、啓発活動によって、犯罪の防止や防犯意識の向上に努めます。
- ③交通安全運動、安全教室、交通少年団、少年少女消防クラブ等による防火、防犯や交通安全の啓発活動を推進します。
- ④お互いの信頼関係を醸成するために、日常の挨拶や声かけを心がけ、みんなが知り合いになり、犯罪のない地域をめざします。

5 地域特性を活かした元気な産業のまちづくり

■農業

(1)風土を活かし座光寺らしい農業を継承します

- ①農業振興会議が主体となり、市田柿に代表されるような地域の風土を活かした特色ある農業を推進します。
- ②座光寺の農業をより魅力あるものとして、後継者対策に努めます。

③地域の農業を継承しつつ、遊休農地や耕作放棄地の対策に加え、農業の持つ他面的機能の維持を図ります。

[多面的機能：国土の保全、水源の涵養(かんよう)、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の

機能以外の多面にわたる機能]

- ④リニア駅、スマートインターチェンジの整備により、都市部と近くなる事から、体験農業、農家民泊などの事業を継続、充実させるほか、クラインガルテンなどの設置を研究し、6次産業化の取り組みを推進することで交流人口の増加を目指します。(楽農隊、パノラマファーム大門など)

[クラインガルテン：滞在型市民農園]

- ⑤ 地域住民の皆さんが、座光寺の農業のすばらしさを知り、農業の応援団として積極的に地産地消、農家との交流、農業の魅力を伝える活動に参画します。

■農商工の連携(6次産業化)

(2)農商工の連携を進め6次産業化を図ります

- ①商工会、農業振興会議などを主体に定期的に会議を開催し、共通の認識のもと産業の振興を図ります。
- ②座光寺まんじゅうなどの名産品や果物などの特産品を用いた新たな産品や、郷土料理の開発、飲食店での地元産品を用いた新メニューの提案を、農業者、商業者が協力して行い、相乗効果によって、地域産業の発展を目指します。
- ③地域住民の皆さんが一体となって旬を活かした産品の提案やイベントを検討するほか、地域外への手土産などに地元産品を積極的に利用し消費拡大と地域のPRを行います。

6 人と自然に優しいインフラ整備

■土地利用

人の生活、暮らしに優しい土地利用を進め
住みよい地域をめざします

(1)土地利用計画を推進、見直します

- ①社会情勢の変化に柔軟に対応した土地利用を進めるために、必要に応じて土地利用計画の見直しを行なうとともに、新しい土地利用計画の適切な運用管理を行います。
- ②見直しに当たっては、土地利用計画運営委員会を中心に、座光寺独自のルールや隣接地区との整合性等について検討します。
- ③遊休荒廃地の活用を努めます。
- ④乱開発を防止するため、業者・住民に計画の浸透を図ります。
- ⑤リニア及び関連道路事業等により用地を提供する方の新たな用地の確保については、適切な土地利用を鑑みて関係機関に働きかけます。

(2)美しい景観の保全(確保)に努めます

- ①地区内のビューポイントを再発見・再認識し、住民に周知保全に努め、協力を願います。
- ②土地利用の見直しに当たっては、景観を損なわないような計画に努めます。

■施設整備

リニア中央新幹線開通後を見すえて
地域全体が調和する環境整備を進めます

(3)道路・河川を整備し、地域の活性化と災害に備えます

◇道路整備

- ①麻績の里文化ゾーンへのアクセス改良を働きかけます。
- ②万才線(旧工業高校)～湯が洞線への改良を働きかけます。「知の拠点」の周辺整備計画策定のなかで地元の意向を反映するよう求めます。
- ③三遠南信自動車道へのアクセス向上を働きかけます。

(3)知の拠点整備に協力し、その活用を図ります

- ①「知の拠点」が住民にとって、有意義な施設となるよう、地場産品の売り場設置やイベントの開催など関係機関と連絡調整し、ともに発展できるように努めます。
- ②知の拠点の研究が地元商工業の発展や地域の人口増加に資するよう、関連企業の誘致による雇用機会の拡大、子どもたちが将来地元で働く動機づけとなるような場としての役割を関係機関に要請します。

■観光

(4)地域の人と資源を活かした観光振興を目指します

- ①商工会、各関係者が中心となり、2000年浪漫の郷に代表されるような地域の観光資源をみつめなおし、その価値をより一層高め、交流人口増加に向けて地域一体となって協力を深めます。(元善光寺・恒川官衙遺跡・古墳・南本城城跡・舞台校舎・竹田人形館、麻績神社春祭り・桜まつり・南アルプスを望む風景・果樹園の風景・おいしい農産物・名産品など)
- ②地域の交流人口増加の起爆剤となりうるよう、新たな施設の設置やイベントなどの研究をします。
- ③「子ども桜ガイド」のような地域を紹介する人材の活動により、地域を訪れる皆さんを温かくお迎えします。

- ④生活道路全般 / 危険な交差点の改良を優先し、維持補修にて安全対策を求めます。

◇河川、井、側溝水路整備

- ①流れを妨げる堆積土、流木の撤去又護岸、堰堤の補強補修を関係機関に求めます。
- ②井水、側溝の未改修な箇所は2次製品化等の改修を働きかけ排水能力を高めます。
- ③河川整備にあたっては、水質、自然環境や美化維持のために、親水護岸など水と触れ合える整備を求めます。
- ④要望箇所の改修施工率50%をめざし働きかけます。

(4)住宅用地の確保と住環境の整備を働きかけます

- ①移転先の集約化やインフラ整備を働きかけます。
- ②移転者が座光寺で住み続けられるよう行政と一緒に取り組みます。
- ③空き家を把握し、行政と協力して地域の安全と防犯に努めます。
- ④公共交通(JR、循環バス、乗り合いタクシー)維持のため利用促進につとめます。

(5)潤いのある生活のために公園を整備します

- ①恒川官衙遺跡及び高岡第1号古墳の史跡公園整備は、2000年浪漫の郷構想のなかで反映実現に努めます。
- ②ホテル、沢カ二等の生物が見られる、自然にとけこんだ水辺の公園の環境維持につとめます。
- ③都市計画公園「元善光寺公園」の整備を働きかけます。

(6)リニア中央新幹線及び関連道路の整備に協力します

- ①2027年開通に向けて、リニア中央新幹線整備事業に協力します。
- ②スマートインターチェンジ、座光寺上郷道路、国道153号北改良、市場桜町線及び関連市道の整備事業に協力します。